

令和3年度 第1回阿見町教育振興基本計画策定委員会 議事録

日 時 令和3年10月8日(金) 午後7時~9時

場 所 阿見町役場3階 第301会議室

出席委員(12名)

中島委員 綾部委員 宮崎委員 栗山委員 高藤委員 山崎委員

滝本委員 高野委員 野呂委員 永井委員 浅野委員 本橋委員

欠席者(なし)

事務局

湯原教育長 小林教育部長 東指導室長 恵美学校教育課長

飯塚課長補佐 大澤

コンサルタント

(株)都市環境計画研究所 大竹 庄司 長埜

1. 開 会

事 務 局 : 皆様こんばんは。本日はお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございます。本日の進行を務めます、学校教育課の飯塚と申します。よろしくお願いたします。開会に先立ちまして、お配りした資料の確認をさせていただきます。



《 配付資料確認 》

また本日の会議ですが、町の審議会については原則公開することになっていきますので、会議内容や議事録については後日、町のHP等で公開いたします。録音と写真撮影もさせていただきますので、予めご了承ください。発言内容については、ある程度要旨にまとめさせていただきます。

それでは定刻となりましたので、これより「第1回阿見町教育振興基本計画策定委員会」を開会いたします。

2. 委嘱状交付

事 務 局 : はじめに、委嘱状の交付を行います。お名前をお呼びしますので、その場でご起立ください。

《 委嘱状交付 》

3. 教育長あいさつ

事 務 局 : 続きまして、湯原教育長より挨拶を申し上げます。

教 育 長 : 皆様こんばんは。明後日までが任期で、今日はもう退任式をやっていたので、この会議の出席も迷いましたが、個人的に相当気合いが入っていたので、挨拶だけでもさせていただきたいということで出席いたしました。

今、目まぐるしく世の中が変わっています。AIの進歩は凄まじいものです。今

回、今年度と来年度で計画を作っていたいただいて、その後 6 年間の前期計画となります。これまでは 5 年間の計画期間で進めてきましたが、町の最上位計画・総合計画の策定が本計画より 1 年遅れるような形になっており、今回そちらに合わせることになりました。本当は 1 年くらい遅れてもいいわけですが、同時進行という形で進めていくということで、来年度末までに 5 回ほど会議を予定しています。

皆様と一緒にできずに残念ですが、素晴らしい計画ができるようにご協議・お力添えをいただければと思います。

4. 委員長・副委員長選任

事務局： 続きまして、委員長と副委員長の選任へ移りたいと思いますが、その前に大変恐縮ですが、委員の皆様から簡単に自己紹介をいただきたいと思います。

《 委員紹介、教育委員会事務局紹介、コンサルタント紹介 》

事務局： ありがとうございます。皆様の自己紹介もいただきましたので、改めて委員長と副委員長の選任をしたいと思います。

資料 1 に阿見町教育振興基本計画策定委員会規則を記載しています。策定委員会規則第 5 条第 2 項により、委員長及び副委員長は委員の互選により定めるとありますが、ご意見はありませんでしょうか。

委員： 事務局案があれば、事務局に示してもらいたいと思います。

事務局： 事務局としましては、委員長に教育委員会委員の中島委員を、副委員長に県立医療大学の綾部委員をご提案したいと考えています。お二方とも大学の先生で、また保護者でもあるとともに、現計画の後期基本計画策定委員として、平成 28 年度から 29 年度の 2 か年にかけてご尽力をいただいています。如何でしょうか。

全員： (拍手)

事務局： ありがとうございます。それでは委員長を中島委員に、副委員長を綾部委員にお願いしたいと思いますが、お二方ともご承諾いただけますでしょうか。

委員： 承りました。

委員： よろしくお願ひします。

事務局： ありがとうございます。それではお二人には前の席へご移動をお願いします。

5. 諮問

事務局： それではここで教育長から、策定委員会を代表して委員長と副委員長に諮問書を提出いたします。

委員長と副委員長はお手数ですが前をお願いします。



《 諮問書提出 》

事務局： ありがとうございます。教育委員会から、阿見町教育振興基本計画策定委員会の皆様に諮問をさせていただきました。

委員長と副委員長にご挨拶をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員長： 中島と申します。よろしくお願ひします。

仕事柄、私の研究室には学生がおり、今日も 1 日かけて研究打ち合わせをしま

した。学生と話をしてしていると、社会に出てから活躍しそうだと感じる学生と、社会に出た後が少し心配だと感じる学生とで分かります。何が違うのかというと、主体性が全然違うと感じます。

今は大学入試に関しても主体性を見る項目がありますし、就職活動の話をしていると、やはり学力よりも主体性と共同性が評価されています。大学では入学当初から主体性を高めるような教育プログラムを組み、授業でも工夫をしていますが、やはり中々うまくいかないこともあります。4年生になって自分で研究を進めるようになると、その差が歴然と開いていきます。

何が違うのかを考えてみると、やはり 20 歳前後になってから主体性を教えても遅いのかなという気がしています。自ら考えて行動する力は小学校や中学校から脈々と培われて、身に付いていくものなのだと感じます。

この計画は社会で活躍できる子どもたちを育てるための計画です。策定委員の役目はかなり重大だと思っています。子どもたち全員が活躍できるような、そんな計画ができたなら良いなと思います。皆様と共にそういった計画が作れるよう、短い期間ではありますがよろしく願いいたします。

副委員長：綾部と申します。よろしく願いいたします。

この策定委員と併せて、生涯学習推進計画の策定委員も務めています。両方の計画の色々な意見を擦り合わせながら進めていければと思っています。

私の担当に学校産業保健実習というのがあり、ほぼ全ての学校に年1回は伺っていますので、ここ7、8年の阿見町の小中学校の状況は大まかに理解しています。そういった部分でお役に立てればと思います。私ができることは限られています。少しでもお力になればと思っていますので、よろしく願いいたします。

事務局：ありがとうございます。それでは審議に移りたいと思いますが、教育長は所用のため、ここで退席いたします。

6. 審議事項

事務局：それでは改めて審議事項に移ります。

策定委員会規則第6条第1項により、委員長が会議の議長となります。ここからの議事進行は委員長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

委員長：それでは審議事項に入りたいと思います。円滑な審議ができるよう努めてまいりますので、ご協力の程よろしく願いいたします。

(1) 計画策定にあたって

委員長：まず「(1) 計画策定にあたって」、事務局から説明をお願いします。

《 事務局より説明 》

委員長：ありがとうございます。ここまでの説明について、ご質問やご意見がありましたらお願いします。

委員：第1次教育振興基本計画について、何が良かったのか、そして修正すべき所はどこかという検証はどうなっていますか。現計画については、私は初めてなので分

からないのです。

委員 長： 現計画に関して、それを見直すのがこの委員会でもあると思いますので、それを見ながら見直していけば良いのではないかと思います。事務局は如何ですか。

コンサル： アンケート調査内容を本日お諮りしますが、並行して、本日はお配りしていませんが達成度状況調査を10月後半から実施する予定です。計画の内容、指標に定めた数字を検証して、どのくらい進んだか、進んでいないものについては何が原因だったかという所を、担当課に調査票を配付して実施し、次の会議の中でアンケート調査から見えた課題と併せてご報告を検討します。

委員： 分かりました。

委員 長： 他に無いようですので、次の議題に移ります。

(2) 第2次阿見町教育振興基本計画策定に係るアンケート調査について

委員 長： 続いて「(2) 第2次阿見町教育振興基本計画策定に係るアンケート調査について」、事務局から説明をお願いします。

《事務局より説明》

委員 長： ここまでの説明に関して、ご質問等ございましたらお願いします。

委員： アンケートについてお尋ねします。

まず、教職員アンケートの表紙にQRコードが付いていますが、保護者の方には付いていません。アンケートの回答方法に何故変化を付けるのでしょうか。統一して保護者の方でもWEB回答はできないのでしょうか。教職員は紙ベースとWEBのできるわけです。生涯学習推進計画でもアンケートを取っていて、今日までの締め切りでしたので最終的な数値はまだ分かりませんが、紙とWEBの回答割合を見ると大体3対1ぐらいでした。わざわざ、保護者に紙ベースだけで実施する利点は何かあるのかというのが疑問です。

それから、兄弟等が重なる場合に保護者を奇数月と偶数月に分ける必要はあるのでしょうか。保護者770名の中で、小学5年生と中学2年生のお子様を持っている家庭は何割くらいですか。そこを何故分けるかは明確にしてもらいたいです。

委員 長： それでは最初にQRコードの件からお答え願えますが。

事務局： 実は、このアンケート調査票をコンサルにお作りいただいた際は、どちらもQRコードが入っていました。私たち事務局側の考え方が未熟なのかもしれませんが、お子様を経由して学校を通して配付した時に、紙の方が物として回収できるので回収率が高くなるのではないかと考えました。持ってこないお子様が、実際にWEB回答をしているのか、未回答なのかが分からないので、事務局の希望として回収率の低下を防ぎたいという主旨で、コンサルの提案を変更してこの案を考えました。

もう1点の奇数月と偶数月、生まれ月によって回答を選択することに関しては、これは集計上の区分を作る時に、小学生と中学生を分ける必要があり、このようにいたしました。

コンサル： 片方だけ答えるということについては、保護者の負担を考えると、やはり両方答

えるというのは難しいかなという所もあります。そういった所にも配慮して、片方
にということで奇数月偶数月という形に分けさせていただきました。

委員長： 回答が偏っても困るということですよ。小学5年生と中学2年生で兄弟がいた
場合、全員が年上の方で回答してしまうと中学2年生の方ばかりに集まってしま
うので、それで分けたということもありますか。

コンサル： はい。これは本来的には、中学2年生と小学5年生の両方で答えていただくの
がベストですが、同じご家庭に同じ調査票が2通来て、あまりにも負担がかかり
すぎるということがありまして、ではどちらか一方に答えていただくということ
になりました。また、委員長が仰ったように、どちらか一方を書いた時上
のお子様をとってしまうと片方に偏ってしまうので、回答者ご本人の生まれ月の
奇数偶数で、そこをランダムに振り分けようという考えでこのようにさせていた
だいた経緯があります。

先程のQRコードを付けなかった理由も、QRコードについては生涯学習推進
計画と同じように提案させていただいたのですが、学校で回収する場合、先生方が
きちんと責任をもって回収してくださるという特殊な事情があります。そういう
状況の中では概ね90%以上の回収が見込めることから、QRコードは付けなくて
も良いのではないかという判断があったと考えています。

委員： 回収率については見通しが甘いのかなと思います。保護者にアンケートをして、
紙ベースで90%返ってくるというのは、非常に考えが甘いなと思いました。保護
者にアンケートが届かない可能性もあります。であれば、学校の先生方に聞いても
らえると分かると思いますが、今は情報をメール配信していますし、30代から50
代はほぼスマホを持っています。やはりQRコードで、紙ベースではない方が、
そして直接保護者にアンケートが行くようにしていただけると回収率も上がるの
ではないかと思います。

今までのやり方だと、確かに持ってきた子どもに対しては先生がちゃんと回収
していただけますが、持って行くまでが難しい。例えば返信を郵送でやるとなる
と、いつの間にか期日が迫っていて慌てて送り返すということがあります。今は紙
ベースというのはあまりよろしくないかなと思います。

委員長： 確かに、SDGsを謳っている割に紙ベースというのはどうかなという気もしま
す。何とか回収率を上げるという考えだと思いますが、先生方の負担が増えること
も考えられます。こういうQRコードではなく、保護者の方に一斉にメールが送
れるのであれば、メールで回答をいただくということも一つかなという感じがし
ます。その辺りは如何でしょうか。

委員： それが一番良いと思います。直接、保護者にメールが送れるのであれば、そうい
うシステムがあるのであれば。学校はメールを送れますよね、保護者に対して一斉
に。学年で分けても良いでしょうし、それで保護者に直接送っていただけると、回
収率や回答率も。学校の負担も、教育委員会から頼まれたメールを送るだけなら大
分違うと思うのですが。

委員長： このアンケートは匿名でやりますよね。回答が関係しますから、無記名というこ
とになるかと思います。前回の紙ベースでのアンケート調査の回収率はどれくら

いただいたか分かりますか。

事務局：第1次前期計画の10年前（前々回）のアンケート調査は、保護者の回収率は86.3%、後期計画の5年前（前回）は85.9%でした。アンケートの回収率としてはかなり高いと認識しています。

委員長：お子様と先生を介してもそれくらいの回収率ということなので、メール、或いはQRコードでやった場合、どれくらいの回収率が見込めるかという不安はありますが、どうでしょうか。

委員：回収率80%以上というのは非常に高いですが、結局、お前まだ出してないぞということにならないか懸念があります。

委員：申し訳ないですが、お前まだ出してないだろうという指導を教員にやらせるのは如何なのかというのは感じます。それはやはり少し違うのかなと。あくまでも依頼をしているのは町で、それを教員が中に入って、提出してねという呼びかけはできますが、出ていないご家庭の子供に何故出さないのかというやり取りは問題なのかなと思います。

今、現実に学校も、紙を配らずにデータ配信をする方向で、スクリレ（学校向けデジタル連絡ツール）という仕掛けもやっていて、まさに逆行する形になっています。ですので、最初に委員が仰ったようにQRコードが一番なのかなと思います。

やはり速いです。今回、コロナになった時にも、ネット環境はどうなのだという調査の時も、Googleフォームを使ってあっという間に意向を捉えることができています。そう考えると仰る通り、やはり今はスマートフォンを皆さん所持されていますので、QRコードから入った方が、いつでも回答できるというメリットもあると思います。協力はしますが、出ていないから、8割切っているから、どうのこうのということを学校に求められると、それはまた違うかなと思います。

委員長：貴重なご意見ありがとうございます。どうでしょうか。私も学校で、以前は紙ベースで授業アンケートをとっていたのですが、QRコードではありませんが、端末を使って答えてもらう方が回収率も上がり、色々なことを書いてくれます。紙よりもデータの方に慣れてきているというのものではないでしょうか。少し検討してもらえればと思います。

事務局：大変貴重なご意見をありがとうございます。コンサルからも元々の提案ではそうでしたので、ちょっと練り直しをしたいと思います。校長会への説明もこれからですので、この会議が終わって、来週の校長会の時にお話をしたいと思っています。なるべく学校の負担、保護者の負担が少ないような形にできるよう考慮したいと思います。また、未回答の場合について、再度のお願いをしていただく必要はありませんので、学校でできる範囲でご協力をいただければと考えています。

委員長：やはり先生方に催促させるのは大変ですし、子供たちは保護者と板挟みになるのでつらいと思います。新しいやり方でやってみても良いのではないのでしょうか。よろしくをお願いします。

副委員長：対象者を増やすのであれば、学年を増やしてしまえば単純に上がる世界ではあると思います。データ処理は一括で、紙ベースよりも大分楽になりますので、そういったことも含めて考えていただければ良いのかなと思います。

コンサル : 1つ確認をさせていただきたいのですが、例えば QR コードでアンケートを取らせていただく場合、紙ベースの冊子は、やはりお配りしたほうが良いとお考えなのか、これはもうなくて、メールで直接保護者に回答フォームのアドレスが行く方が良いとお考えなのか、事務局で最終的には判断されることだと思いますが、その辺りは如何でしょうか。

委員 : 個人的に保護者の立場としては、紙ベースで QR コードが来るよりは、学校からのメールでアドレスが来た方が直でアクセスできますので、その方が良いかなと思います。最近はそのようなものが多いです。先ほどおっしゃられたように、最近では段々と紙が無くなって、PTA でも紙をなくしてきています。紙を配ると、ランドセルの奥に入ってしまったって何か月も出てこなかったりすることもあります。

委員長 : ちゃんとデータが取れるようになっていけば問題無いかなと思います。両方配ってしまうと二度手間になって、余計に大変になってしまうなら、全てデータでやった方がよろしいかと思いますが。

委員 : できるのであればその方が有難いです。

事務局 : メールの話ですが、恐らく登録率は 100%ではなかったと思います。学年別の配信という形に恐らくなってくると思いますが、登録率は 90 後半のパーセンテージだったと思います。メールを登録していない保護者もいて、実際にどなたかというのは把握できていないと思いますので、メールだけでは全ての対象者に届かないという弱点もあります。この辺りをどう考えるかという所はあると思います。

委員 : 学校のメールは、実は QR コードを配信できないのです。全て文章で、あとは URL とか、そういうものしか配信できません。画像を配信するために、先程のスクリレというのを新たに導入しつつある所なのですが、それもメール登録率よりはるかに低いので、やはり、もし学校を介してということになると、1枚ペラでも紙が必要になってくるかなと思います。

例えば、QR コードからアクセスしていただければ中身が見られるので答えてください、というのは OK だと思いますが。

委員 : 学校のメールで URL は貼り付けて送れるのですね。であれば、それで直接アクセスすれば、学校のメールを登録していない方は、学校で把握しているのではないのでしょうか。誰が入っていないかを把握していれば、その方に対しては紙で送るという形で、少し学校側の負担になってしまいますが、それが一番良いのかなと思います。どの学校も、恐らく 95%くらいはメール登録をしていたと思いますので。

委員 : よろしいですか。生涯学習課の話をするわけではないですが、アンケートは全て紙で送りました。抽出者数は 2,000 名で、その中で紙ベースで回答する人と WEB で回答する人の、本人の選択肢があったわけです。だから、やはり漏れが無いように、保護者には全ていかなければということを考えれば紙ベースで出してもらって、回答はいずれかの選択ができるようにすればよろしいかと思うのですが。私は学校の通信手段がどの辺りまでというのは把握していませんので何とも言えないのですが、いずれにしても漏れが無いようにしていただければと思うのです。

委員長 : そうしましたら、この QR コード付きの 1枚ペラを対象のご家庭に配布して、データでお答えいただくというのが最も良さそうな気がしますが、どうでしょう

か。全員が学校のメールに登録されているのであれば、メールが良いかなと思いましたが、漏れがあってははいけませんし。

副委員長： 漏れがある人をそこまで追いかけていけばいけない話でしょうか。大体、そういうことをしない人は答えていただけないのではないかとも思いますが、それではだめでしょうか。

委員長： 登録しないという方は、そういう信念を持って登録していないのかもしれませんが、そういう方が貴重なご意見を持っている可能性もあります。

副委員長： 統計調査なら厳密さを狙うというか、これは結局、言いたい人が書くものであるので、そこまで追い込む理由が無い気もしますが、そこも含めてご検討いただければと思います。

委員長： 心配しているのは、メールだけで配信して、登録していない方を無視する形になってしまうのはよくないかなと。確かに全員が全員、回収する必要は無いかと思いますが、最初から入れないというのは少し問題かなという気がします。

QRコード付きの紙を対象学年にお配りいただいて、回収はデータですという形が良いかと思います。QRコードではアクセスできないという方がいるかもしれないですか。

事務局： その辺りは固めずに、どちらでも良いですという幅を持たせておいたほうが、回答者の方々も答えられるのではないかと思います。

委員長： 教職員も保護者も両方、この紙ベースの冊子にQRコードを付けて、全員に配布するというのでしょうか。

コンサル： 他自治体でアンケート調査を取った事例ですが、ある自治体で、やはり学校からのメール配信を結構している所で、そこでも一応紙でお配りしてどちらでも答えられるという形にしたのですが、5年前よりも少しだけ回答率が上がりました。実際は紙とネットと5割ずつぐらいの感じで、今、また別の自治体で取っていますが、そちらもやはり紙とネットが半々ぐらいという形で戻ってきています。

委員長： 分かりました。どうしましょうか。両方とも冊子にQRコードを付けて、どちらでも回答できるようにということで如何でしょうか。手間になってしまうかもしれませんが、そういう形で進めてよろしいでしょうか。

事務局： 学校としてのお考えも伺えればと思うのですが。

委員長： 配るのも集めるのも、持ってきてくれたものを集めてお渡しするのは簡単です。ただ先程申し上げたように、誰が出ている、出ていないということまでやらないのであれば、どちらかを選んでも問題無いです。いつまでに集まったものをお渡りする、という形であれば問題無いです。

事務局： それでは頂いたご意見を参考にしまして、方向性としては、保護者も教職員も統一した形で、QRコードを付けたものでお配りします。保護者さんにはお子さんを通じてお持ち帰りいただき、WEBで回答できる方はそこで回答をいただくと。紙で回答をいただける方については、お子さんから学校にお戻しいたいただきます。学校で取りまとめたいただいたものを事務局で取りにお伺いして、戻ってこない方はQRコードで回答されている場合もありますので、その確認は学校ではされない

ということによろしいと思います。この方向で進めたいと思います。

委員長：あとは回収率が上がるのを願うばかりですね。よろしく願います。
他はどうでしょうか。

委員：教職員向けアンケートですが、対象者 250 名という数が全職員にあたるのかが分からないのですが、これはどういう形で考えていらっしゃるでしょうか。

事務局：県費負担教職員で常勤の方を対象にしています。

委員：ではそれについて少し意見を言わせていただきたいのですが、今年度赴任した職員もいて、まだ 1 年経過していない者もいます。そうすると阿見町の教育ということも、正直に言うと 1 年も経過していない者の信憑性をどう捉えるかという部分もあると思います。別な意味で色々な比べ方をして、少し違うようなデータになる可能性もあるので、できれば 2 年や 3 年経過している者というような形で対象を絞っていただくと、よりデータが信憑性のあるものになるのかなと思いますが、如何でしょうか。

委員長：貴重なご意見ありがとうございます。事務局はどうでしょうか。人によっては、アンケートを取られる側として、あなたは取られたけれど私は取られていないということに差別感を抱かれても困るかなという気はします。アンケート内容の中で分けることはできないでしょうか。

コンサル：アンケート 1 ページ目の「あなた自身について」の問 2 で年齢をお伺いしています。この部分を年齢ではなく勤続年数に変えて、勤続年数の少ない方と長い方に分けてクロス集計をすることができますので、そちらで対応させていただきたいと思います。

副委員長：何を目的に聞くアンケートかによって全然違いますので、そういった話ではそもそもないような気がします。阿見町の全教員の意識を聞くのであれば全然関係無いですし、ベテラン教員を代表とした阿見町の教育の現状を把握したいのであれば切るべきで、その目的を事務局やコンサルが答えてくれないと、私たちの検討という話ではないと思うのです。

目的から手段という話ではないような気がしますが、先生方に何を聞きたいのかだと思います。それが決まったら基本的に決まる話で、分かっている・分かっている・分かっていないの問題ではないような気がします。

コンサル：阿見町の教育を分かっている・分かっていないという所の温度差というか、認識度の差はあるかもしれません。そういった所を、もしアンケートの中で違いはどの程度のだろうといことを確認したい状況になった時に切り分けられるよう、勤続年数を追加して入れておくということであれば対応可能ということでお答えしました。

副委員長：明らかに違う場合、勤続年数の長い方の集団の意見を計画に反映させるという言い換えで良いでしょうか。

コンサル：必ずしもそういうことにはならないとは思いますが。

副委員長：結局、理由が無いとできませんので、きついことを言っている自覚はあるのですが、その所はやはり検討していったほうが良いのではないかと思います。

コンサル：最初から除いた方が良いのかというご指摘もありましたが、新任で来ていただ

いた先生方のご意見もやはり反映したいということもあり、全部を入れたいと考えています。

副委員長： 分析の1つの報告として、取り込むという感じで書いていただけますか。

委員： 例えば未回答というのはあってもいいのですか。

コンサル： それはよろしいかと思えます。

委員： そういうことも但し書きに書いておいていただかないと、こんなことをこの段階で聞かれても答えられない、というのは出ると思えます。

コンサル： 内容的にお答えが難しい場合は無回答で結構ですというようなことを書き添えた方が良いというご意見ですね。

副委員長： 聞き流して結構ですが、生涯学習推進計画と同じように内容確認だけ少しさせていただけます。

まず保護者アンケートですが、「小学校5年生、中学校2年生のお子様を持つ保護者の皆様へ」とまで書かないと、少し失礼かと思いました。

説明文下から4行目も、「個人を特定することはございません」とかと思えます。ご記入にあたってのお願いの「封緘」というのも少し固いかなと思えます。「学校では開封しませんので」という書き方も抽象度が高いので、教職員の方に書いてある「学校教育課職員が回収します」と書いたほうが分かりやすいと思えます。

1ページ目のタイトル「2 新型コロナウイルスにおける」は、「お子様の」「子供の」と一言入れたほうが良いような気がします。

問4の新型コロナウイルス禍における「学習」は、何を指すか分かりませんでした。勉強なのか学習なのか、自己勉なのか、少し抽象度が高いです。

問6の3の「宿題や学習の時間を守る」というのは、時刻のことなのか時間のことなのか、意味が取れませんでした。

問9の「誰に相談しますか」というのは、このままでも良いですが「ネットの検索」というのが入れば今風かなとも思えます。

問13については、学校評価でほびきいている項目ですので、これはいらぬのではないかと、置き換えても良いような気もします。

問16の「通信端末の活用・利用について」、丸が1つですが、丸を1つ付けて何を目的に知りたいのかが理解できませんでした。

問18ですが、問14と問15と重複が多く、本当は問18を外してと言いたい所ですがそれは無理だと思いますので、問14、問15の項目の再検討をお願いしたいです。問14、問15を聞いて、さらに問18で同じことを聞いて、さらに満足度と重要度を聞くのは少し嫌な感じがします。郷土教育や図書館の話は重複していると思いました。

問19は、「など」と書くと少し不思議な感じがします。保護者アンケートは以上です。

教職員アンケートの方は、「教職員の皆様へ」と書いたほうが良いかと思えます。

問12の選択項目の1つ目「適正な規模の学校づくり」とありますが、「学校をつくる」かなと、少し気になりました。

問13は、友人が先で相手がないが後かなと、小さいことですが。

問 17、問 18 については、現任校の課題なのか、個人の課題なのか、どちらが聞きたいのでしょうか。学校の課題としたら、先程のベテランの先生しか答えられないですし、現任校と言いながら自分の課題を書きそうで、適切かどうか判断が付きかねました。

問 23 は、順番を考えたほうが良いかと思えます。1 番の PTA 活動や 5 番の学校の情報データ、8 番や 9 番は選択項目として上に上げて、他の文化・芸術というのは後ろかなと思えます。

問 24 の選択項目の「教室の冷暖房設備」というのは、小中学校は全部入れた気がしましたので、これを聞く理由が少し分からなかったです。

問 25 は「安全な教育環境づくり」であれば、選択項目の順番は「5 登下校の防犯」が 1 番上に来るのではないかなと思えます。

問 26 の設問の「特に力を入れてほしいもの」というのは、何が聞きたいのかが分かりませんでした。丸 1 つだけ付けて何が分かるのかというのがあります。複数ならまだ分かりますが、これは判断できないなと思えました。

話すだけ話して申し訳ありませんが、まとめたものを渡しますので、検討をお願いします。気持ちよくアンケートに回答していただきたいので、修正できる範囲でしていただければと思います。よろしくお願いします。

委員長：ありがとうございます。沢山ありますがよろしくお願いします。

委員：今の話と重複すると思うのですが、設問の「その他」の下にまだ問があるのが殆どです。「その他」はいらぬのではないですか。その下の設問を何のために付けたのか、少し考えてもらいたいなと思えます。「その他」がいらぬのであれば入れない。「その他」の下の設問も重要視するなら「その他」は削除するとか、検討してもらいたいです。

それから、丸はあてはまるもの全てというのは、私は全て丸にします。3 つ、1 つと書いてあるものは良いですが、あてはまるもの全てと書いてあれば、私は全部付けます。それではその設問の意味が分からなくなると思えます。

先程、副委員長も仰った 4 ページの選択項目について、教職員にも保護者にも同じ設問にしています。同じ設問は必要なのでしょう。これは教職員の設問のような気がします。家庭教育なのか学校教育なのか、少し曖昧さがあります。

保護者アンケート問 18 の選択項目のキャリア教育は、他でも指摘しましたが、キャリア教育という言葉で保護者は分かるのでしょうか。官僚と間違えてしまう捉え方も考えられます。

副委員長：私もいらぬのではと思うのですが、コンサルが譲れない部分だと思えます。敢えて言うのをやめましたが、以前にも同じような話になった記憶があります。突き合わせて教員と保護者の意識のずれがあったらそれを是正するとか、そういう話ではないような気もします。

委員：学校の現場の先生方はどう思われますか。

委員：教職員と保護者の意識の違いが知りたくて同じ項目なのかな、という解釈ですかね。学校評価も、聞き方は違いますが、似たような項目で意識の違いを取っているので、そういうことが知りたいのかなとは思いました。

- 委員： こういう理由で保護者の意見が取りたいというものでしたら、それはそれで良いと思うのですが、保護者に関しては言葉を難しくすると、少し失礼ですが、分からないのではと思います。
- 委員： 表現が抽象的で、教職員であればこの一言で分かる所が、恐らく保護者は分からない方も多いかもかもしれません。そもそものずれが生じるのは当たり前としてやっているのかなと思います。言い方が悪くなりますが。
- 委員： 私もそう思いました。
- 委員長： コンサルとしては、やはり入れたいということですか。確かに意識のずれを見るというのも重要なかなと思うのですが。
- コンサル： その予定で作りましたが、事務局と相談させていただいて、より良い方針を検討させていただければと思います。
- 委員： 先程話したように、この問題を教職員はこういう捉え方をしている、保護者はこういう捉え方をしている、という比較をするならばこれで良いと思います。
- 委員長： 言葉の問題というか、キャリア教育もそうですが、若い保護者なら分かるかなという気もします。若い頃からこういう言葉を聞いていると思いますので、恐らく理解していただけるのではないかなと。ただ、分かりにくい言葉はやはり直していかないといけないとは思います。
- 保護者と教職員両方とも取るというのは、意識のずれがあってもいけないですし、先生方が満足しても、実際に教育を受ける側が満足しなければ意味が無いことですので、満足度のずれを見てみたい気がします。これはこれで、両方とも入れてもらいたいと思います。他はどうでしょうか。
- 委員 保護者向けの方で、問17のご家庭での接続環境については、実はこのコロナ禍で何度も取らせてもらっています。しかも、これは申し訳ないのですが、抽出では困るのです。残らず全て、どれだけ接続できない家庭があるかを全部調べてもらわないと、抽出した子供の家庭だけで100%で、阿見町は100%ですと、そんなことを言われてしまったら大変です。これは省いていただいて、学校にお聞きいただきたいと思います。
- 委員長： 確かにそうですね。よろしくお願いします。他はどうでしょうか、よろしいですか。かなり貴重なご意見が沢山出たと思います。大変かとは思いますが、それでは議題2はこれで締めたいと思います。

(3) その他

- 委員長： 「(3) その他」に関して、事務局からお願いします。

《事務局より説明》

- 委員長： スケジュールに関して、何かご質問等あればお願いします。
- 委員： アンケートを取る時期が、少しどうかかなと思う所があります。恐らく11月上旬に取るのは今後のスケジュールからの計画だと思うのですが、学校でアンケートを取る時期というのは、タイミングによって答えが大きく変わってきます。正しいという言い方は変ですが、平らな状況で取るのであれば、例えば私なら年度末辺り

なのかなという気がするのです。

11月にこのアンケートを取ったとしたら、阿見町の学校では7時間授業が始まっています。子供達が学校へ楽しく行っていますかと聞かれた時に、7時間授業で疲れていて、勉強が嫌になってしまっているというような答えが出てしまう気もします。これが例えば年度末、2月頃であれば、4月からの子供達の様子を見てどうでしたかというような長いスパンで、1年間の様子で取れます。スケジュール上、この時期というのであれば仕方無いと思うのですが、アンケートを取る時期や内容はとても重要なのではないかと思います。

委員長：確かにそうですね。一番忙しい時を過ぎて取ると、かなり影響を受けるかもしれません。回収率にも響くかもしれませんが、どうでしょうか。

事務局：貴重なご意見をありがとうございます。たしかにおっしゃるとおりです。年度末というご提案ですが、この11月に設定した理由として、やはり年度内に集計を出すという工程で進めないとスケジュールがずれ込んでしまい、2年間での策定に影響が出てしまうことからこの時期となっています。また、今は落ち着いています。新型コロナウイルス感染症の第6波が見込まれることもあり、その時にこのアンケート調査が行えるかどうかというのも不透明で、今の機会に是非回答回収をやらせていただきたいと事務局では考えている所です。

申し訳ありませんが、ご理解いただければと思います。

委員：今回がというよりはこれから実施する際、時期が大事なのではないかなと。色々なアンケートがこれからあるかもしれないので、何を取りたいかによって、どうなのかなと思う所です。今回は策定上、仕方がないかなと思います。

事務局：生涯学習推進計画の方が先行して進めているので、早めるということは可能性としてあるかもしれません。実施時期についても考慮したいと思います。ありがとうございます。

委員長：あまり影響が出ない時期に出したほうが良いのかもしれませんが。修正点が結構ありますので早急に直してもらって、早めることが可能であれば、委員が仰ったように、あまり影響が出ない時期をご検討ください。

事務局：可能な範囲で対応したいと思います。ありがとうございます。

委員長：他はどうでしょうか。よろしいですか。それでは、議題は全て終わりました。ご協力ありがとうございました。

これで進行は事務局にお返しします。

事務局 委員長、ありがとうございます。以上で審議事項は全て終了いたしました。長時間の協議をありがとうございました。

4. 閉会

事務局：以上をもちまして令和3年度第1回阿見町教育振興基本計画策定委員会を閉会します。ありがとうございました。

以上